

(研究会の記録から)

[脇・心霊講座から]

## 霊魂の世界と人間の世界

……人生にとって現幽交通は有意義 (3)

実は「死の彼岸」とされる霊魂の世界（広義の霊界）と、この地上界とは、常時交通が行われている。したがって、その意味が深く理解されることで、この意義の重要性がさらに明らかにされてくるわけである。

この交通を、幽顕交通とか、現（顕）幽一致という表現によって解説がされる場合があるが、この地上と霊界とは「単に交通が可能」ということだけではなく、両界は、叩けば響くという喩えのとおり連動装置を形成しているのである。しかも、このような関係が宇宙組織全体にわたって成り立っている。

人間について、大宇宙に対しての小宇宙というが、この意味からも判るように、この宇宙の法則によって、地上人と霊界居住者とはつねに、一瞬の例外もなく、交通（交霊、道交）が行われているということであり、そこに人生の意義を見出すことができるのである。残念ながら、この重大な事実を世上の多くの人々は知らない。霊界と地上界とは叩けば響く連動装置になっていることを知るべきである。すなわち、幽顕交通が可能であるということは、単に霊界と人間界という世界があるというだけではなく、霊魂界にいる人たちが、地上の人たちに呼びかける、ある場合には、地上に戻ってくるということ意味しているのである。

これをさらに敷衍して考える時、われわれの祖先たちは、一人の例外もなく、両界の交通を行いながら、今もなお生き通しているのである。そしてその祖先が何を考えているか。その思念はすべて、地上のわれわれに通じているのである。ただ、多くの人たちがそうしたことを理解していないというだけのことで、その人自身も、知らず、必要な時には、祖先霊と交通しているのである。当然、こちらの思念も相手に通じている。

その思念の内容とは種々雑多、十人十色であって、その内容によっては、それが原因となって幸となり、不幸となるというわけである。

さらに具体的に言えば、霊界と人間界との交通が可能のため、その交通の仕方によって、守られる人、救われている人、苦しむ人、迷い悩む人等々、こうしたいろいろな人たちが存在することになる。しかも、人間すべて人生百般、例外なく、霊界からと地上人間との合作といってよく、しかも一方的に行われることはない。その人の心の波長が仲介となって、表面に現れる。現象として起きるからである。

これを心霊現象と名付けるならば、人生に関する限りは「広義」であって、「狭義」で言えば、心霊現象がそれに該当するということができる。

また、これを大所高所から見てみると、人間は心霊現象によって生命が与えられ、生きているということにつける。そこに人間の本質と意義があり、その応用・技術こそが、生活することと生きる上での上手・下手ということという差になる。その上手な人が、幸福な人。生き甲斐のある人と言うことができる。その人生指導原理に相当するものが、日本人としての「日本神霊主義（日本スピリチュアリズム）」なのである。

(補遺)

[神界組織と人生の意義]

この宇宙には内面世界、すなわち宇宙神界があり、その主宰神が宇宙の目的に対して自ら大方針を立てている。その運営・摂理については、分割处理的運営といえる部分もある。

たとえば、太陽には太陽の内面世界に神霊界があり、その主宰神が目的に向かって摂理を図る。同様に、この地球にも地球神霊界があり、その主宰神が地上のそれぞれの目的に向かって一刻も休むことなく、大自然と人類のために、そしてその使命に向かって運営し、守護し、その進歩向上のために指導されているわけである。これらを総称して、われわれは神界組織と呼び、その組織下に生を享け、各自が付与されているその使命に向かっての間、守護・指導をされているのである。

これは、人間が神霊の守護と指導によって平和であり幸福であるということである。その守護・指導を、守護神からの指名委託されているのが、われわれの背後に控えている守護霊であり、一人の除外なく、その守護霊を中心とした守護霊団によって使命達成に向かって、人生を送り、霊魂の向上を図るよう道筋がたっている。われわれは、そこに「人生の意義」があることを知るべきである。